

平成 19 年度実行計画の実施状況

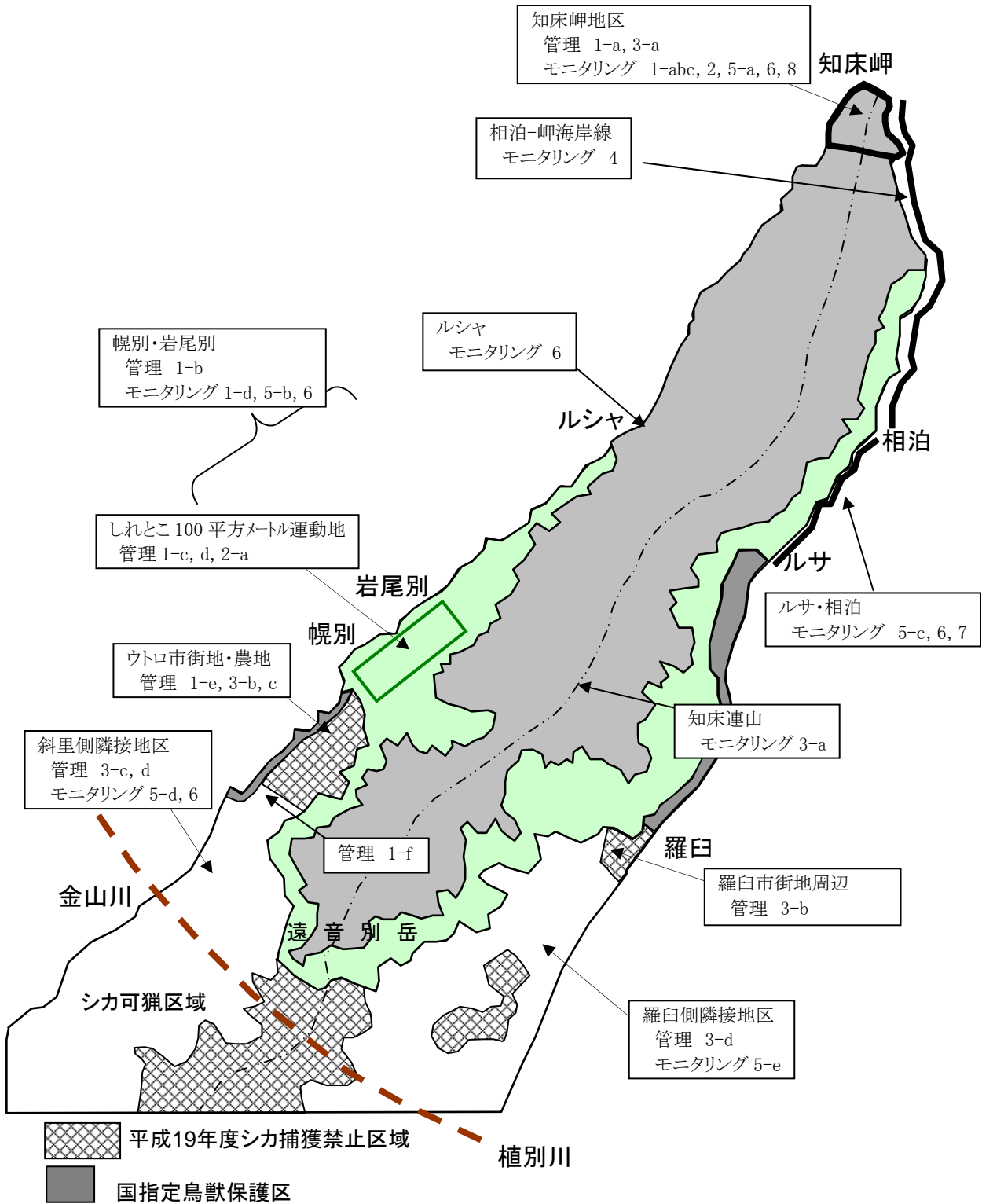


図 1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号は本文に対応。この他、道路路面工事指導(2-b)、採食圧広域調査(3-b)、土壌浸食広域調査(9)は対象地が広範に分布する。

管理事業

1. 防御的手法

a. 知床岬侵入防護柵管理(環境省)

亜高山高茎草本群落(トリカブト)の侵入防護柵(20m四方)及びガンコウラン群落の侵入防護柵(15m 四方)において、折損した支柱の取り替えと支柱の補強を行う修繕を実施。

森林調査区において、風倒木処理及び柵の修繕を実施。

b. 幌別侵入防護柵管理(林野庁)

森林調査区において、風倒木処理及び柵の修繕を実施。

c. 運動地侵入防護柵管理(斜里町)

現在、運動地内には大小 15 基の侵入防護柵があり、広葉樹苗の育成や未立木地の森林化、防風林の育成、既存林分保護などを図っている。老朽化した支柱等は順次交換等を実施。また、積雪期にシカの侵入が見られた一部防護柵についてはフェンスのかさ上げ作業を実施。

d. 運動地樹皮ネット管理(斜里町)

シカの選好樹種を中心にこれまで約 800 本の単木保護(金網・樹皮保護ネット使用)を実施。近年、劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持を中心に作業中。

e. ウトロ市街地侵入防護柵管理(斜里町)

斜里町より

f. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵設置(林野庁)

ウトロ地区にあるイチイ林木遺伝資源保存林(7.65ha)において、食害を受けていることからその一部分(3.9ha)を取り囲むように侵入防護柵を設置。

2. 越冬環境改変

a. 運動地森林化作業(斜里町)

各種広葉樹苗を自己生産し、運動地内の各侵入防護柵内へ植樹している。今年度は約 500 本の植樹を行った。この取り組みで植え付けられた広葉樹苗は運動当初より通算で約 1 万本に達し、その生育は概ね順調。ただし今後、ここ数年内に既存防護柵内への植樹が終了する見込みのため、苗圃での広葉樹苗の生産を最小限に抑え、規模縮小を進めている。

b. 道路法面牧草面積の抑制(遺産 B 地区)(環境省)

工事に関わり植生工を伴う協議が 2 件あり、従来より、工事により生じた裸地は周囲の自然植生に速やかに復元できるよう現地のすきとり土の張付け、不足する場合は道内産種子(オオイタドリ、エゾススキ、オオヨモギ、エゾヤマハギ、クサヨシ)を使用するよう指導している。

3. 個体数調整

a. 知床岬 密度操作実験(環境省)

本年度の個体数調整を 12 月と 1 月の 2 回実施、合計 33 頭(うちメス成獣 24 頭)を捕獲。1 月実施の 2 回目は天候不順で延期ののち現地入りしたが、流氷の勢いが強く上陸後数時間で中止した。年度内の追加捕獲は 3 月末に検討(資料 2-2 参照)。

b. 隣接地区 個体数調整(羅臼市街・ウトロ高原)(斜里町、羅臼町)

c. ワナ捕獲個体数調整(真鯉・ウトロ)(斜里町ほか)

斜里町より

d. 狩猟(輪採制)(北海道)

隣接地区において狩猟(輪採制)による密度操作実験を実施。

モニタリング調査

1. 植生回復

a. 知床岬 亜高山高茎草本群落侵入防護柵(環境省)

b. 同 ガンコウラン群落侵入防護柵(環境省)

c. 同 山地高茎草本群落侵入防護柵(環境省)

ガンコウラン群落防護柵(アブラコ湾柵)と山地高茎草本群落防護柵(エオルシ柵)では、柵の設置後 5 シーズンが、根室側に位置するシレトコトリカブトなどの亜高山高茎草本防護柵は設置後 3 シーズンが経過した。いずれの区画でも柵内での在来種の回復は緩やかに進んでいる。アブラコ湾のガンコウラン群落とエオルシの山地高茎草本群落では、回復の目的とする種の開花個体の増加が目立っていた。羅臼側の亜高山高茎草本群落では、柵外に比べて柵内で種数と群落高が高い傾向は昨年と同様であるものの、昨年からの変化はごくわずかであった。柵の設置以前に優占していたトウゲブキが依然として優勢であることが他種の回復を妨げている可能性が考えられる。

d. 幌別地区長期森林調査区(林野庁設置、知床財団独自調査)

知床 100 m²運動地に隣接した幌別地区の海岸沿いの針広混交林に設置した森林モニタリングサイトにおいて、平成 15 年初冬に柵を設けた囲い込み区と対照区双方について、2m 以上の樹木ならびに林床植生を調査した。面積はそれぞれ約 1ha、モニタリングは 2 年おきに実施している。シカの採食圧がかからなくなって 4 シーズンが経過した囲い込み区では林床の稚樹の成長が著しく、植生全体の植被率も増加していた。対照区では顕著な変化は認められなかった。

2. 密度操作対象地域(知床岬)

a. 西側林内混合ベルト調査区

実施せず

b. ササ調査区(東京農工大ほか)

平成 19 年 10 月に 3 調査区(100m×3m のベルト内に各 6 方形区)で植被率と高さを調査。全植被率 78.47±8.03%、ササ植被率 69.03±9.10%、ササ高 38.31±6.96cm。過去 2 回の調査と比較すると、平成 11 年 7 月よりササ高が約 7cm 低下、平成 17 年 6 月より植被率は増加。ただし後者はササの開葉によるもので、株の増加によるものではない。

c. イネ科草本等調査区(環境省、東京農工大ほか)

知床岬台地草原のイネ科草本を対象に、平成 19 年 8 月に金属製ケージ(1.5m×1.5m)6 台を設置。10 月に 4 組のケージ囲い区と対照区(1.2m×1.2m)で刈り取りを行い、乾燥重量を比較した。ケージ内乾重は 361.14±29.75(g/m²)、対照区との差(採食量)は 126.99±70.16(g/m²)で、採食率は 35.17±19.14%であった。

3. 採食圧広域

a. 知床連山周辺(環境省)

知床連山登山道沿いの森林部分に3カ所のサイト(斜里側2カ所、羅臼側1カ所)を設定した。現時点でこれらのサイトに著しい採食圧はかかってはいないものの、高山帯へのシカの進出が確認されていることから今後もモニタリングが必要である。シカによる採食との確証は得られなかったものの、羅臼岳岩清水、三峰コル前後、三峰キャンプ場近くの西斜面、サシルイ岳北斜面の線状凹地中ほどの東向き斜面には、融雪期に雪から出た部分のみを採食したと思われるパッチ状の痕跡があり、採食した種の確認と範囲の特定が必要である。平成18年の遠音別岳周辺、平成19年の連山周辺に続き、平成20年度には知床岳周辺で同様にサイト設定を行うことが必要である。

b. 採食圧広域調査(林野庁)

エゾシカによる森林植生への影響を半島の広範囲で把握するため、平成19年9～10月に斜里側15箇所、羅臼側20箇所の調査地において、森林調査(毎木・林床植生・稚樹・被食率)を実施した。その結果、斜里側越冬地(オシンコシン周辺)では、樹皮可食面積の3-26%、下枝・稚樹の5-75%が被食されており、林床植生の54%を忌避植物が占めた。一方、斜里側高標高地や羅臼側では、採餌痕は見られるが影響は小さかった。

4. 在来種分布 相泊-岬海岸部希少植物分布(環境省)

シカによる著しい採食圧を受けている海岸の高茎草本群落やガンコウランなどの風衝地群落の現況を確認するために、斜里側と羅臼側を網羅して平成17年に実施された概査、平成18年に実施された方形区を用いた組成調査に引き続いて、平成19年8月に羅臼側海岸部を踏査した。これまでの調査地点も含めて調査区を固定化し、今後のシカ採食圧の変化をモニタリングしうる体制を整えた。

過年度の調査から残存程度が少ないと思われた高茎草本群落を中心に確認を行い、羅臼側で固定化した方形区は昨年度までの方形区を含めて29カ所である。昨年度に設定した斜里側の12カ所も合わせれば、確認された種数は110種になる。羅臼側で高茎草本群落がまともに残存している主要な地点としては、崩浜、観音岩周辺、剣岩～メガネ岩間、ペキンノ鼻の岬側、念仏岩周辺、およびカブト岩～赤岩間が挙げられる。

シカによる軽度の採食痕等が各所に見られることから、今後も継続的なモニタリングが不可欠である。また、斜里側の調査地点を羅臼側と同様の方法で固定化することが平成20年度の課題である。

5. シカ生息動向

a. 知床岬 航空カウント(環境省)

3月末までに実施予定

b. 幌別岩尾別ライトセンサス(斜里町)

平成19年春分は報告済み。平成19年秋はここ数年並み(6-7頭/km)でばらつきも小さかった。百メス比もここ数年の減少傾向に従い20前後。

c. ルサライトセンサス・日中センサス(羅臼町、知床財団)

平成15年からのデータを見ると、夏場は100頭前後(8km区間; 12.5頭/km)で推移、12

月後半より増加して3月末頃に最大値(過去最大は平成18年400頭)に達し、6月末に向け減少するという傾向にある。日周活動的には午前より午後が多く、午後と夜間に大差はない。平成20年1、2月はほぼ昨年並みに推移。積雪量も昨年同様に少なく、法面への依存はまだ低い。

d. 真鯉日中センサス(知床財団)

輪採制の影響が予測されたが、すでに2月上旬で200頭(約10km区間; 20頭/km)を越え、猟期を終えた地域から昨年同様の数が見られている。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(北海道)

10月に2コースで調査を実施。結果は、それぞれ26頭(2.2頭/km)、20頭(1.8頭/km)。

6. シカ自然死亡 ルシヤ・岬・幌別岩尾別・ルサ相泊・真鯉(知床財団)

前回報告どおり、平成19年春期においては知床岬とルシヤでは自然死確認なし。幌別岩尾別では3体(他にクマによる捕殺1体)、ウトロ市街地近くで2体、真鯉で2体を確認。ルサ相泊では2体を確認。

7. 季節移動 ルサ相泊

今年度未実施

8. 土壌浸食 知床岬 浸食線変動状況(環境省)

8月に浸食線に沿って撮影。写真判定では浸食の進行は認められず。逆に、植被率が増加したところも見受けられた。

9. 土壌浸食広域 (採食圧広域調査の植生被度でモニター)(林野庁ほか)

以上